

研究ノート

木曾地域の魅力を探る
—2007年度アンケート調査の分析—

Analysis of Attractive Points to Visitors at Kiso
District from the Questionnaire in 2007

鈴木尚通
佐藤進

1. 序
 2. 調査結果の分析
 3. まとめ
- 付録. アンケート調査票

1. 序

木曾福島地区におけるアンケート調査は今回で3回目になる。前回(2006年)の調査と同時期の2007年8月4日(日)に調査を行った。前回の調査では、昼食時を過ぎると急に町中の通行量が減少したので、今回は11時過ぎから14時半頃まで調査を行い、その後遅い昼食をとることにした。

アンケート調査は足湯付近、上の段の街並み付近、木曾文化センター付近を中心に、木曾町にある飲食店(おそばや)前でも行った。アンケート調査を行っている最中に、団体旅行をしているグループが何度か調査地点の近くを通り過ぎたが、それらの方々には調査に協力していただく余裕はなかった。

当日の天候は晴れで、気温は30℃以上に上がったと思われる。14時を過ぎると、人出が予想通り減少したので、14時30分頃には調査を終了した。アンケート票数は57であった。前年度は84票であったので、27票減少したことになる。

今回のアンケート調査では、前回の調査票に対して、旅行の主な立ち寄り先と購入した(または購入予定の)お土産の品目を書いていただく項目を追加した。

アンケートに答えてくださった来訪者57人の性別は男性34(59.6%)、女性21(36.8%)、無回答2(3.5%)であった。来訪者の居住県は、長野県16人、愛知県16人、岐阜県2人、静岡県6人、その他(都道府県)17人であった。

長野県からの来訪者16人の中で、居住市町村名を記入された方は、伊那市4人、松本市1人、塩尻市1人、岡谷市1人、大町市1人、木曾町1人、下條村1人の合計10人であった。伊那谷からの来訪者は5人(伊那市4人、下條村1人)とちょうど半数を占めている。その他都道府県17人の内訳は、東京都5、大阪府4、神奈川県2、茨城県2、兵庫県2迄が2人以上で、京都府、埼玉県各1人であった。

以下では57票の回答を、長野県内(16人)、長野県近隣の3県(愛知県、静岡県、岐阜県)(24人)とその他都道府県(17人)に分けてクロス集計を行った。

2. 調査結果の分析

以下では、アンケート項目に対する回答を、長野県からの来訪者(22人)、近隣3県(愛知、静岡、岐阜)からの来訪者(31人)、その他都道府県(30人)の3つの居住地域に分けて解析し、図または表の中では、それぞれ、長野県、愛知他、その他と表示する。

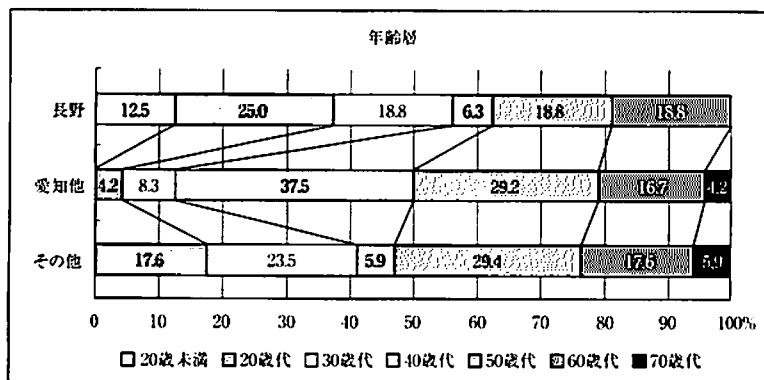
項目によっては全57票を単純集計した上で、居住地域別地域別の集計を分析した。

性別は、長野県では計16人の中で、男性10人(62.5%)、女性6人(37.5%)、愛知他では24人中、男性14人(58.3%)、女性9人(37.5%)、無回答1人(4.2%)、その他17人の内訳は男性10人(58.8%)、女性6人(35.3%)、無回答1人(5.9%)であった。

図1に年齢層別の集計結果を示す。来訪者の最も多い年齢層は、長野県では20歳代25.4%(4人)、愛知他(近隣3県)では40歳代37.5%(9人)、その他(都道府県)では50歳代29.4%(5人)と長野県から地理的に遠くなるほど年齢層があがる傾向にある。50歳以上の来訪者を比較すると、長野県37.6%(6人)、愛知他50.1%(12人)、その他都道府県

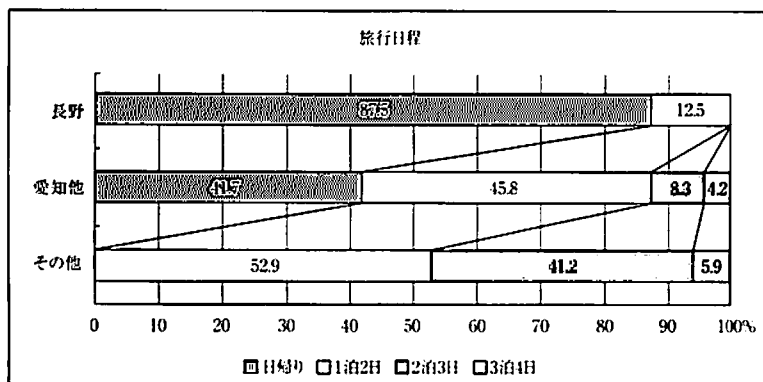
52.9%（9人）と、やはり長野県から遠くなるほど50歳以上の来訪者の比率が高まる傾向にある。

図1 来訪者の年齢層



来訪者の旅行日程を図2に示す。長野県からの来訪者は、日帰り87.5%（14人）、1泊2日が12.5%（2人）であった。立ち寄り先を書いてくださった方は1人で、1泊2日で宿場町巡り（1日目は妻籠宿と馬籠宿、2日目は木曾福島と奈良井宿）をされていた。

図2 来訪者の旅行日程



愛知他は、日帰り41.7%（10人）、1泊2日45.8%（11人）、2泊3日8.3%（2人）、3泊4日4.2%（1人）と、宿泊を伴う人が約58%と過半数を占めている。1泊2日の方で、主な立ち寄り先を記入された方は6人で、1日目は日和田の火祭り（2人）、日和田高原（1人）、日和田高原・開田高原（1人）、木曾駒ヶ岳（1人）、木曾駒森山ccで2日目に木曾福島地区に立ち寄った際にアンケートに協力していただいたことになる。尚、日和田の火祭りの2人は2日目もいずれも野麦峠であったので同行されている可能性が高い。2泊3日の方2名の内1名は、大滝村（1日目）、御嶽山・開田高原（2日目）、木曾福島・帰途の日程であった。3泊4日の方は3泊ともクラブ活動で、御岳休暇村を利用された。

その他都道府県からは日帰りはなく、1泊2日52.9%（9人）、2泊3日41.2%（9人）、

3泊4日5.9%（1人）と2泊3日以上の人が1泊2日と同程度の比率を占めている。

記入していただいた主な立ち寄り先と主な交通手段を表1にあげる。表中の丸印（○）は調査当日の主な立ち寄り先を表す。○の付いている日に木曾福島地区において調査に協力していただいたことになる。3泊4日の方はマイカーを利用し、いずれも開田高原南乗鞍キャンプ場に宿泊されている。ほとんどの方が木曾地域を旅行されているが、黒部ダムや白馬まで行かれて、木曾福島に立ち寄られた方（合計2名）もいる。

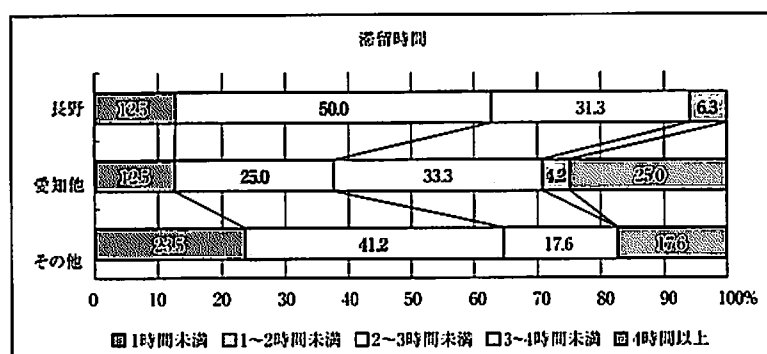
長野県から居住地域が遠くなるにつれて宿泊をする比率、及び連泊をする比率が高くなっている。

表1. その他都道府県からの来訪者の主な立ち寄り先

旅行日程	1日目	2日目	3日目	主な交通手段
1泊2日		○登山		鉄道
	黒部ダム	○木曾福島		鉄道
	御岳山・登山	○帰り		鉄道
	開田高原	○木曾福島		鉄道
	愛知県	○奈良井		マイカー
	白馬	○		マイカー
	木曾平沢	○奈良井		マイカー
2泊3日	○木曾福島	開田高原		鉄道+レンタカー
	開田高原	○奈良井宿	木曾福島	マイカー
	ホテル	伊那 御岳	○寝覚の床	マイカー
	ホテルのみ	開田高原・みはらしファーム	○木曾	マイカー

来訪者の滞留時間を図3に示す。2時間以上滞留する人は、長野県では37.5%（6人）、愛知他2県では62.5%（15人）、その他都道府県では35.3%（6人）と、愛知他2県の滞留時間が最も長かった。その他都道府県は2時間以上滞留する人は長野県と同程度であったが、4時間以上滞留する人が17.6%（3人）あった。そのうち1人は木曾福島地区は初めての方で、2人は3回以上のリピーターであった。

図3 来訪者の滞留時間

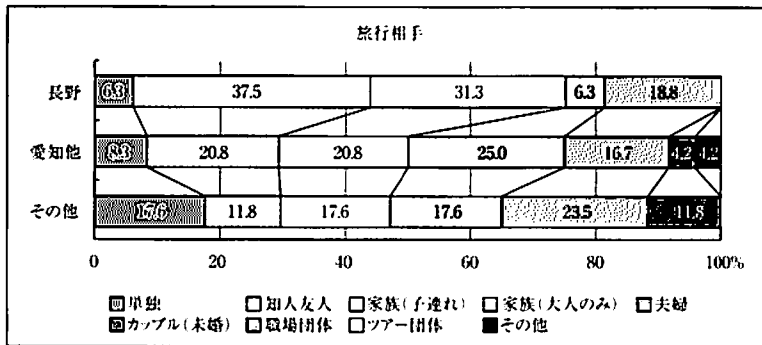


来訪者の旅行相手を単純集計した結果は全57人の内、知人友人と家族（子連れ）がとも

に22.8%（13人）、夫婦19.3%（11人）、家族（大人のみ）17.5%（10人）の順であった。

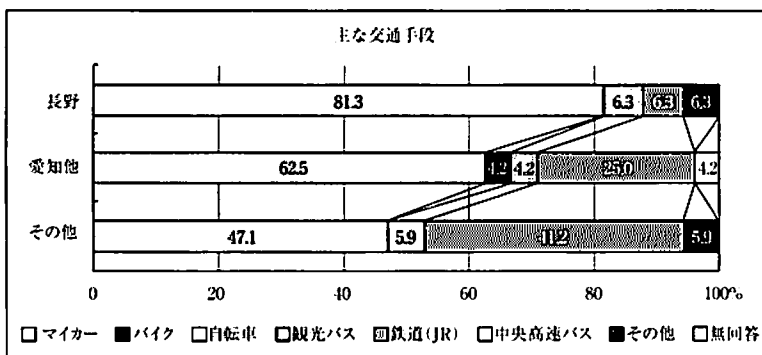
旅行相手についてクロス集計した結果を図4に示す。長野県内からの来訪者の旅行相手は、知人友人37.5%（6人）、家族（子連れ）31.3%（5人）、夫婦18.8%（3人）の順となっている。愛知他2県からの来訪者は、家族（大人のみ）25.0%（6人）、知人友人と家族（子連れ）がともに20.8%（5人）、夫婦16.7%（4人）の順で、その他都道府県からの来訪者は夫婦23.5%（4人）、家族（大人のみ）と家族（子連れ）と単独がいずれも17.6%（3人）の順となっている。

図4 来訪者の旅行相手



来訪者の交通手段を図5に示す。長野県内からは、マイカー81.3%（13人）、観光バス、鉄道（JR）がいずれも6.3%（1人）であった。愛知他2県からは、マイカー62.5%（15人）、鉄道（JR）25.0%（6人）、観光バス4.2%（1人）、その他都道府県からは、マイカー47.1%（8人）、鉄道（JR）42.1%（7人）、観光バス5.9%（3人）の順であった。

図5 来訪者の主な交通手段



交通手段について単純集計した結果はマイカー36人（全体の63.2%）、と鉄道（JR）14人（全体の24.6%）で全体の約88%を占めている。ただし、観光バスによる来訪者は団体行動をしている場合が多く調査結果に現れていない可能性が高い。

権兵衛トンネルを通過してきた人は、長野県の56.3%（9人）、愛知他2県の37.5%（9人）、其他都道府県の41.2%（7人）であった（図6参照）。権兵衛トンネルを帰路に通る予定の人は、長野県43.8%（7人）、近隣3県29.2%（7人）、其他5.9%（1人）（図7参照）であり、長野県から距離が遠くなるほど往路と復路のコースが異なる割合が高くなっている。

図6 権兵衛トンネルを通過してきたか

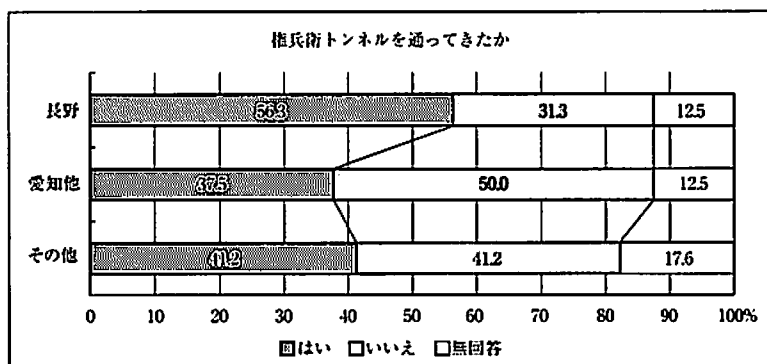
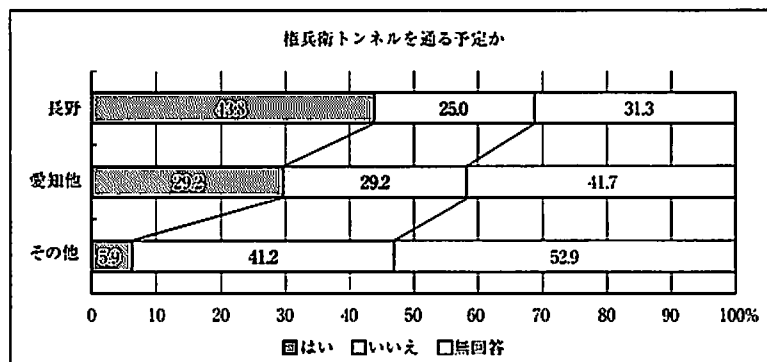


図7 権兵衛トンネルを通る予定か

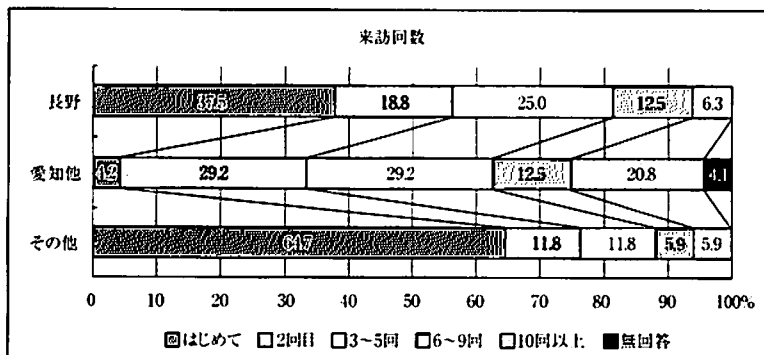


木曾福島地区への来訪回数を図8に示す。

長野県内からの来訪者は、はじめて37.5%（6人）、3～5回25.0%（4人）、2回目18.5%（3人）、の順となっている。2回以下が56.3%、6回以上のリピーターが18.2%（3人）あった。愛知他2県からの来訪者は、2回目29.2%（7人）、3～5回29.2%（7人）、10回以上20.8%（5人）の順であった。2回以下が33.3%（8人）、6回以上のリピーターも33.3%（8人）を占めている。其他都道府県からの来訪者は、はじめて64.7%（11人）が最も多く、2回目と3～5回の11.8%（2人）がそれに続いている。

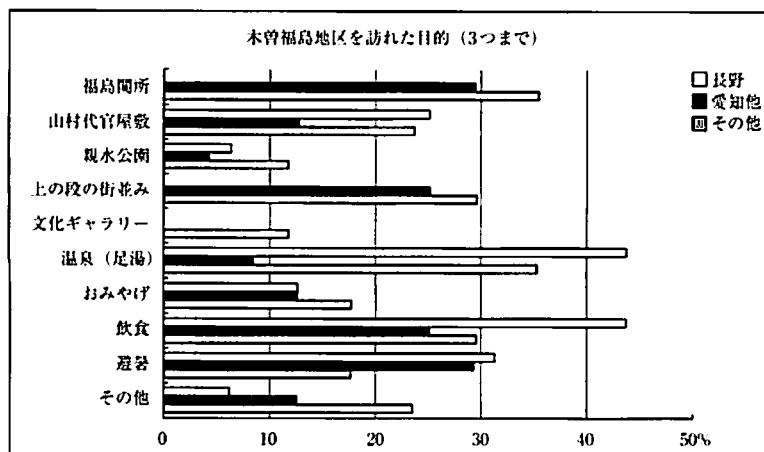
初めての来訪者の比率は、其他都道府県が最も高くなっている。

図8 木曾福島地区への来訪回数



木曾福島地区を訪れた目的（3つまで選択）は、単純集計では、飲食（18人、31.6%）、避暑（15人、26.3%）、温泉（足湯）（15人、26.3%）、福島関所（11人、19.3%）、上の段の街並み（11人、19.3%）、山村代官屋敷（11人、19.3%）の順であった。

図9 木曾福島地区を来訪した目的



居住地域別（図9参照）に見ると、長野県からの来訪者の目的は、温泉（足湯）43.8%（7人）、飲食43.8%（7人）、避暑31.3%（5人）、山村代官屋敷25.0%（4人）の順であった。

愛知県2県は、福島関所29.2%（7人）、避暑29.2%（7人）、上の段の街並み25.0%（6人）、飲食25.0%（6人）であった。

その他都府県は、福島関所35.3%（6人）、温泉（足湯）35.3%（6人）、上の段の街並み25.0%（6人）、飲食25.0%（6人）、山村代官屋敷23.3%（4人）であった。

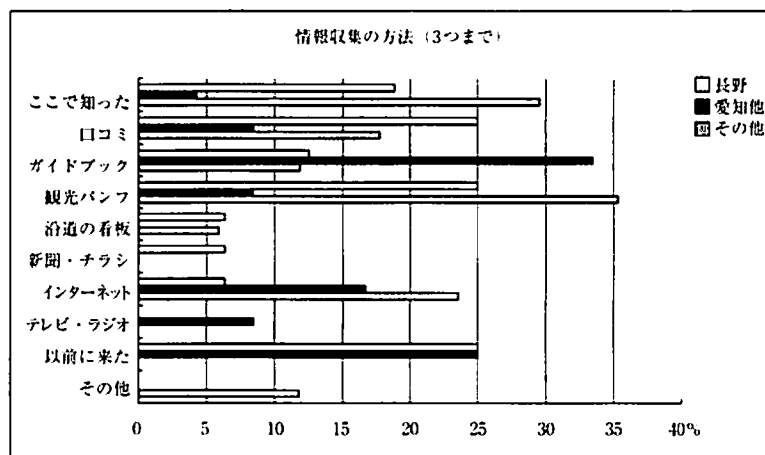
木曾福島地区に関する情報収集手段（3つまで選択）は、単純集計ではガイドブック（12人、21.1%）、観光パンフ（12人、21.1%）、以前に来た（10人、17.5%）、ここに来て初めて知った（ここではじめて）、口コミ、インターネットがともに（9人、15.8%）の

順であった。前回（2006年度の調査）では、「ここに来て初めて知った」が89人中6人（7.1%）であったから、今回の調査では若干増えているようだ。

居住地域別の集計結果を図10に示す。長野県内からの来訪者は、以前に来た25.0%（4人）、口コミ25.0%（4人）、観光パンフレット25.0%（4人）、ここではじめて18.8%（3人）の順であった。愛知他2県は、ガイドブック33.3%（8人）、以前来た25.0%（6人）、インターネット16.7%（4人）、観光パンフレット8.3%（2人）、口コミ8.3%（2人）の順であった。その他都府県は、観光パンフレット35.3%（6人）、ここではじめて29.4%（5人）、インターネット23.5%（4人）、口コミ17.6%（3人）、ガイドブック11.8%（2人）、の順であった。県内からの来訪者にはインターネット利用者は1人しかいなかったが、県外からの来訪者は計8人と比較的良好にインターネットを利用している。

また、その他都道府県からの来訪者が「観光パンフ」とともに「ここではじめて」を情報収集の方法として上位にあげているが、立ち寄ったお店に木曾福島地区などのパンフレットが置いてあることが役立っているかもしれない。

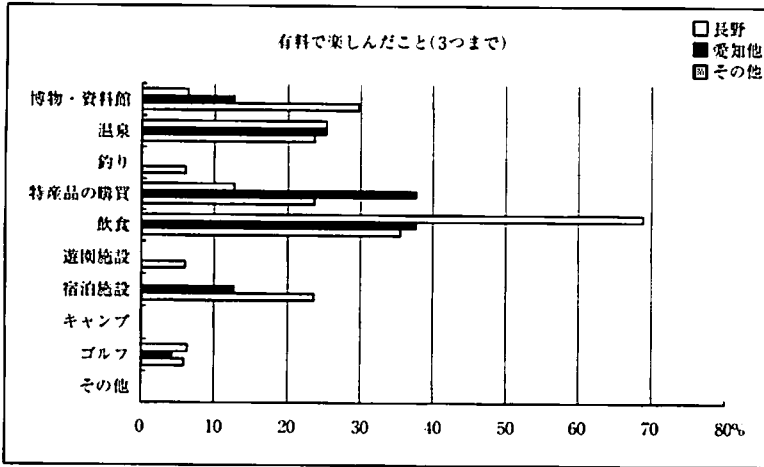
図10 木曾福島地区の情報収集手段



この地域で有料で楽しんだこと（3つまで選択）に対する単純集計の結果は、計57人中、飲食（26人、45.6%）、特産品の購買（15人、26.3%）、温泉（14人、24.6%）、博物・資料館（9人、15.8%）の順であった。

居住地域別の集計結果を図11に示す。長野県内からの来訪者は、飲食68.8%（11人）、温泉25.0%（4人）、特産品の購買12.5%（2人）で楽しんだことになる。愛知他2県からの来訪者は、飲食37.5%（9人）、特産品の購買37.5%（9人）、温泉25.0%（6人）、博物・資料館12.5%（3人）、宿泊施設12.5%（3人）、その他都府県からの来訪者は、飲食35.3%（6人）、博物・資料館29.4%（5人）、温泉23.5%（4人）、産品の購買23.5%（4人）、宿泊施設23.5%（4人）で楽しんでいる。

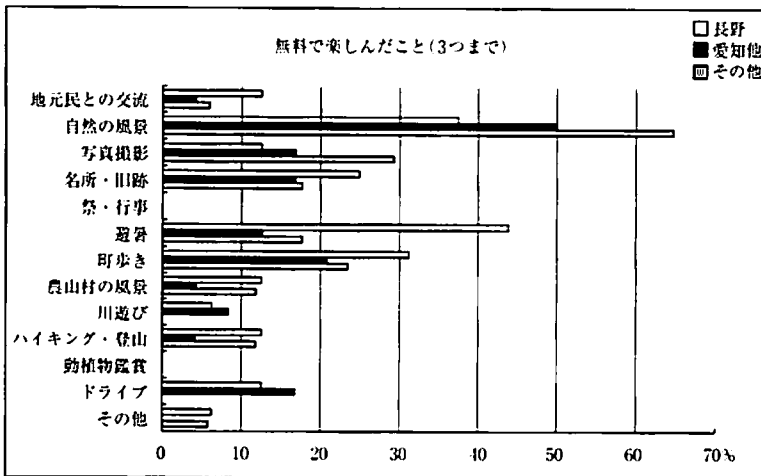
図11 この地域で有料で楽しんだこと



この地域で無料で楽しんだこと（3つまで選択）を単純集計した結果は、57人中、自然の風景（29人、50.9%）が断然トップで、それに街歩き（14人、24.6%）、避暑（13人、22.8%）が続いている。

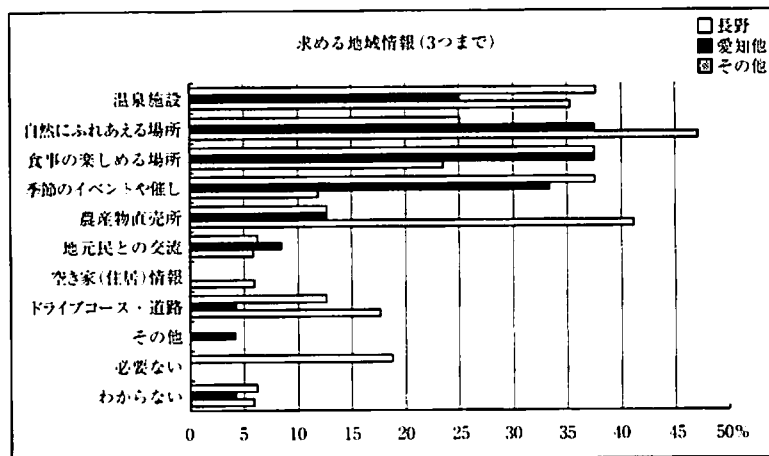
居住地域別の集計（図12参照）では、長野県からの来訪者は避暑43.8%（7人）、自然の風景37.5%（6人）、街歩き31.3%（5人）、名所・旧跡25.0%（4人）の順になっている。愛知他2県からの来訪者は、自然の風景50.0%（12人）、街歩き20.8%（5人）、名所・旧跡と写真撮影とドライブがともに23.5%（4人）の順であった。その他都府県からの来訪者は、自然の風景64.7%（9人）、写真撮影29.4%（5人）、街歩き23.5%（4人）、避暑と名所・旧跡17.6%（3人）の順となっている。どの地域に居住されている方も自然の風景を1番にあげている。

図12 この地域で無料で楽しんだこと



この地域に関するほしい情報を単純集計した結果は、自然にふれあえる場所（21人、36.8%）、食事の楽しめる場所（19人、33.3%）、温泉施設（18人、31.6%）、季節のイベントや催し（16人、28.1%）、農産物直売所（12人、21.1%）、ドライブコース・道路（6人、10.5%）の順であった。

図13 この地域に関するほしい情報



居住地域別に見ると、図13に示すように長野県内からの来訪者は主に、温泉施設37.5%（6人）、食事の楽しめる場所37.5%（6人）、季節のイベントや催し37.5%（6人）、自然にふれあえる場所25.0%（4人）をあげている。愛知他2県は、自然にふれあえる場所37.5%（9人）、食事の楽しめる場所37.5%（9人）、季節のイベントや催し33.3%（8人）、温泉施設25.0%（6人）、農産物直売所12.5%（3人）の順であった。その他都府県は、自然にふれあえる場所47.1%（8人）、農産物直売所41.2%（7人）、温泉施設35.3%（6人）、食事の楽しめる場所23.5%（4人）の順であった。その他都道府県は季節のイベントや催しが他の2地域よりも低くはなっているが、図13に示した上から5項目がこの地域に関してほしい主な情報ということになる。

この地域付近で行ったことがあり、気に入っている場所に対する集計結果を図14から図16に示す。

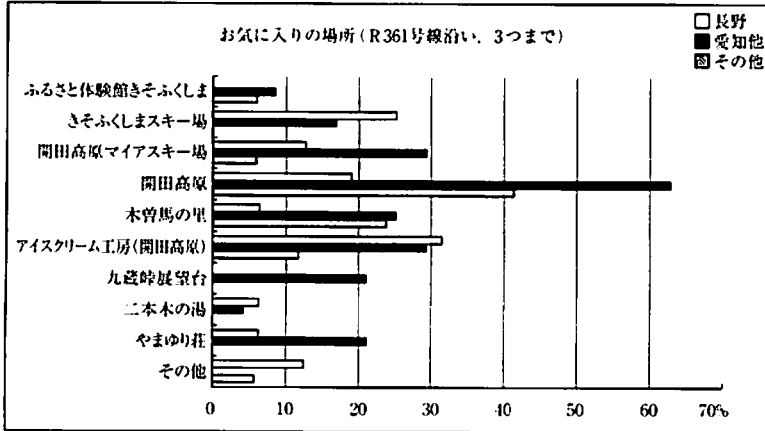
国道361号線沿いにある観光スポット（3つまで選択）に関して単純集計した結果は、開田高原（25人、43.9%）、（今回追加した）アイスクリーム工房（開田高原）（14人、24.6%）、木曾駒の里（11人、19.3%）、開田高原マイアスキー場（10人、17.5%）、きそふくしまスキー場（8人、14.0%）の順であった。

居住地域別に見ると、図14に示すように、長野県内からの来訪者は、アイスクリーム工房31.3%（5人）、きそふくしまスキー場25.0%（4人）、開田高原18.8%（3人）、開田高原マイアスキー場12.5%（2人）の順となっている。愛知他2県は、開田高原62.5%（15人）、アイスクリーム工房29.2%（7人）、開田高原マイアスキー場29.2%（7人）、ヤマユリ荘20.8%（5人）、九蔵峠20.8%（5人）、きそふくしまスキー場16.7%（4人）となっている。その他都府県は、開田高原41.2%（7人）、木曾駒の里23.5%（4人）、アイスク

リーム工房（開田高原）11.8%（2人）であった。

愛知他2県および他都道府県からの来訪者をもっとも気に入っている場所は開田高原であった。長野県内からの来訪者にとっても開田高原にあるアイスクリーム工房を含めると、開田高原は魅力ある観光スポットといえるであろう。また、開田高原マイアスキー場やきそふくしまスキー場は、県内だけでなく、愛知他2県の居住者にも知られていることがわかる。

図14 行ったことがあり、気に入っている場所（R361号線沿い）



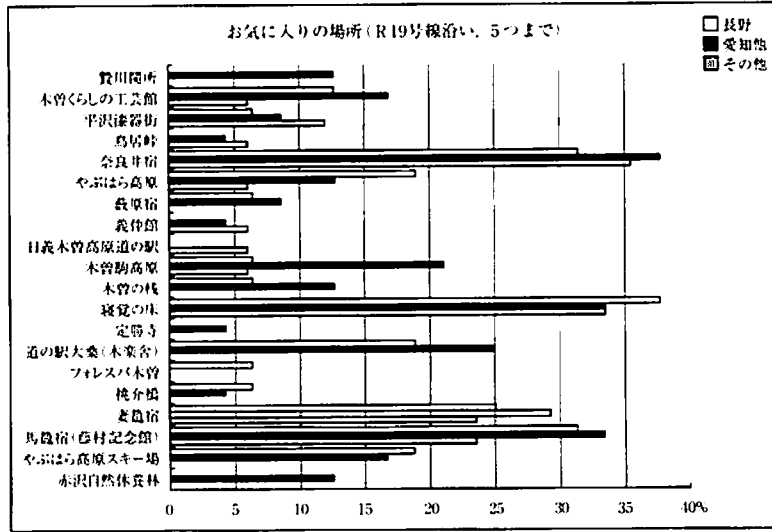
国道19号線沿いの観光スポット（5つまで選択）に関して単純集計した結果は、奈良井宿（20人、35.1%）、馬籠宿（17人、29.8%）、寝覚めの床（17人、29.8%）妻籠宿（15人、26.3%）の順で、旧宿場町3カ所と寝覚めの床が上位4位までを占めている。

県内からの来訪者は、寝覚めの床37.6%（6人）、馬籠宿31.3%（5人）、奈良井宿31.3%（5人）、妻籠宿25.0%（4人）、やぶはら高原スキー場18.8%（3人）、道の駅大桑18.8%（3人）、やぶはら高原18.8%（3人）の順であった（図15参照）。

愛知他2県は、奈良井宿37.5%（9人）、馬籠宿33.3%（8人）、寝覚めの床33.3%（8人）、妻籠宿29.2%（7人）、道の駅大桑25.0%（6人）、曾駒高原20.8%（5人）、やぶはらスキー場16.7%（4人）、木曾くらしの工芸館16.7%（4人）となっている。

その他都府県は、奈良井宿35.3%（6人）、妻籠宿23.5%（4人）、馬籠宿23.5%（4人）、寝覚めの床17.6%（3人）の順であった。

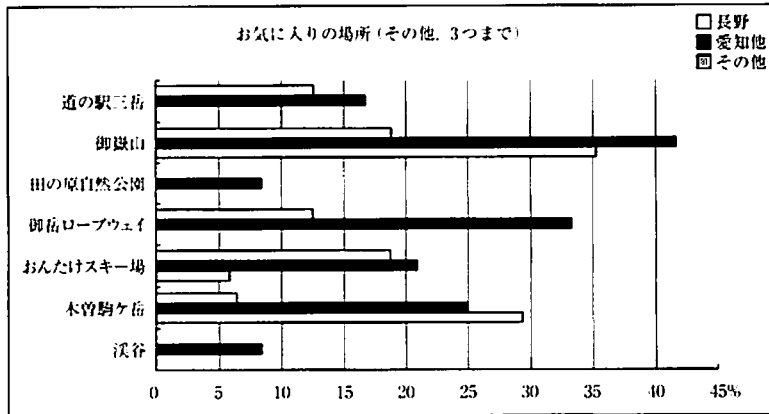
図15 行ったことがあり、気に入っている場所(R19号線沿い)



その他の観光スポット（3つまで選択）の単純集計では、御嶽山（19人、33.3%）、木曾駒ヶ岳（12人、21.1%）、御岳ロープウェイ（10人、17.5%）、おんたけスキー場（9人、15.8%）の順となっている。

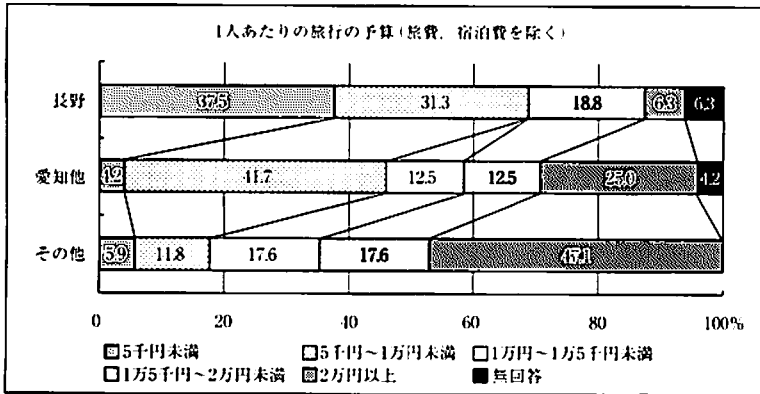
居住地別の集計（図16参照）では、長野県は御嶽山とおんたけスキー場がともに18.8%（3人）で1位を占め、道の駅三岳と御岳ロープウェイがともに12.5%（2人）でそれらに続いている。愛知県2県は御嶽山41.7%（10人）、御岳ロープウェイ33.3%（8人）、木曾駒ヶ岳25.0%（6人）、おんたけスキー場20.8%（5人）の順となっている。その他都道府県は、御嶽山35.3%（6人）、木曾駒ヶ岳29.4%（5人）が大部分を占めている。

図16 行ったことがあり、気に入っている場所（その他）



旅費と宿泊費を除く旅行の一人当たりの予算を図17に示す。長野県内からの来訪者は日帰り、愛知他2県からの来訪者とその他都府県からの来訪者は宿泊を伴う割合が高い。さらに、その他都道府県の方が愛知他2県よりも連泊する比率が高い。これらの旅行日程を反映して、長野県内、愛知他2県、その他都府県の順に旅行予算が増加している。

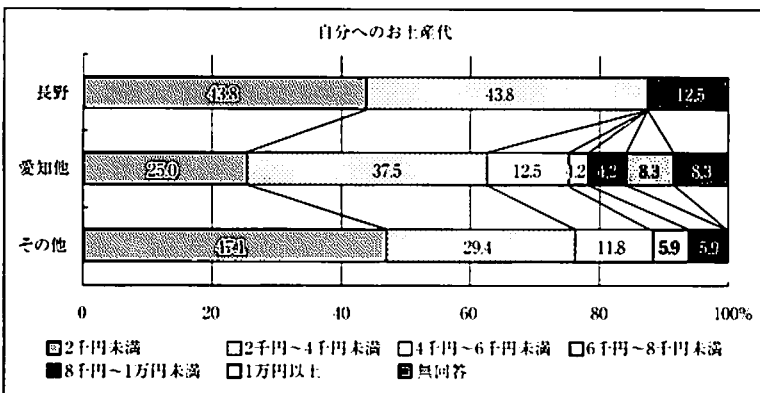
図17 旅費、宿泊費を除いた旅行の予算



旅費と宿泊費を除く旅行の一人当たりの予算の中に含まれる、自分へのお土産代の集計結果を図18に示す。長野県内からの来訪者は、2千円未満43.8%（7人）、2千円以上4千円未満43.8%（7人）と4千円未満が87.6%を占め、無回答を除くとすべて4千円未満となっている。

愛知他2県からの来訪者は、2千円未満25.0%（6人）、2千円以上4千円未満37.5%（9人）と4千円未満が62.5%を占め、4千円以上は29.2%（7人）であった。その他都道府県からの来訪者は、2千円未満47.1%（8人）、2千円以上4千円未満29.4%（5人）と4千円未満が62.5%を占め、4千円以上は23.5%（6人）であった。長野県外からの来訪者の方が県内からの来訪者よりも自分へのお土産代は若干多いようだ。

図18 自分へのお土産代



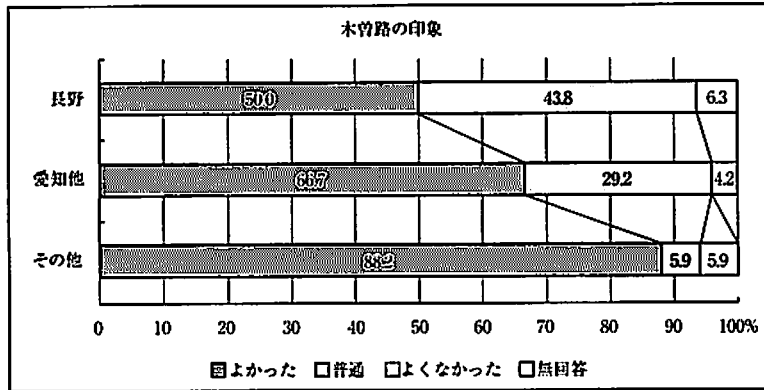
自分へのお土産に何を買ったかの問いに対して、記入していただいた品目を表2にあげる。

表2. 自分用のお土産として購入したもの

品目	度数	品目	度数
菓子	3	さるのこしかけ	1
箸	3	スプーン	1
漆器	2	そば	1
漬物	2	そば饅頭	1
野菜	2	とうもろこし	1
寒天	1	特産品	1
キーホルダー	1	人形	1
きくらげの佃煮	1	花	1
くし	1	ブルーベリー	1
高原野菜	1	まごの手	1
酒	1	リンゴ	1

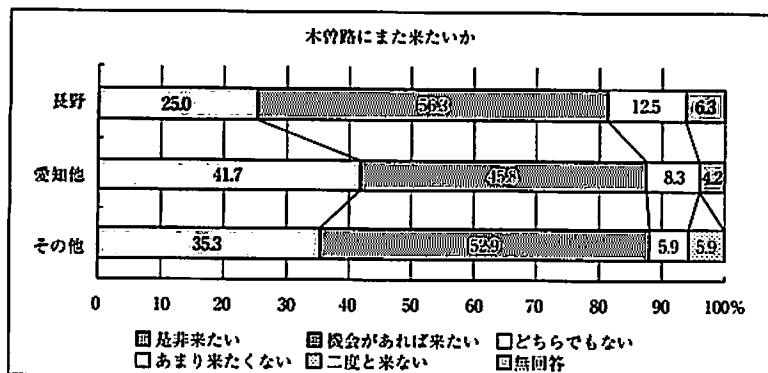
木曽路の印象を図19に示す。よい印象を持った人は、長野県、愛知他2県、其他都道府県の順に高くなっている。

図19 木曽路の印象



木曽福島町にまた来たいかという問いに関する集計結果を図20に示す。どの居住地域からの来訪者も、是非来たいと機会があれば来たいを合計すると80%を超え、木曽福島地区には好印象を持っている。

図20 木曾福島町にまた来たいか



3. まとめ

木曾福島町を来訪した方に対して2007年8月に行ったアンケート調査の結果を、長野県、愛知他2県（愛知、静岡、岐阜）、その他都道府県からの来訪者の3つの居住地域に分けて集計・分析した。

2007年度の調査では、来訪者の年齢層は、長野県内は20歳代、愛知他2県は40歳代、その他都道府県は50歳代の比率が最も高く、長野県から遠くなるほど年齢層があがっている。また、長野県、愛知他2県、その他都道府県の順に旅行日程も長くなる傾向にある。この結果は基本的には2006年度の調査結果と同様である。

今回初めて、旅行日程（日帰り、または宿泊を伴う）に加えて、主な立ち寄り先を記入していただくようにした。記入例は多くはないものの、木曾地域だけでなく、白馬や黒部から木曾地域まで広く旅行されている方もおいでになり、行動範囲の広がり具合がうかがうことができた（表1参照）。

前回の2006年の調査では、来訪回数が6回以上の来訪者は、長野県（22人中）で18.8%、愛知他2県（31人中）で22.6%、その他都道府県（30人中）で20.0%であった。初めて来訪した方は、長野県37.5%（2回目以下56.3%）、愛知他2県29.0%（2回目以下53.8%）、その他都道府県40.0%（2回目以下63.3%）であった。

今回（2007年度）の調査では、来訪回数が6回以上の方は、長野県（16人中）18.8%、愛知他2県（24人中）33.3%、その他都道府県（17人中）11.8%であった。また、初めて来訪した方は、長野県37.5%（2回目以下56.3%）、愛知他2県4.2%（2回目以下33.3%）、その他都道府県64.7%（2回目以下86.5%）であった。その他都道府県で、初めてと2回目の来訪者の比率が前回よりも大幅に上昇している。

木曾福島地区を来訪された方の当地に関する情報入手方法は、長野県とその他都道府県は、「ここで（はじめて）知った」と「観光パンフ」を上位にあげている。お菓子屋さんや土産物を扱っているお店に観光パンフレットが置いてあることが役立っている可能性がある。

お気に入りの場所に関する今回の調査では、国道361号線沿い（3つまで選択）では、開田高原、木曾駒の里、開田高原マイアスキー場、きそふくしまスキー場に、今回追加したアイスクリーム工房（開田高原）があげられている。特にアイスクリーム工房は、ソフトクリームを食べながら小休止する場所としても利用されている。また前回の調査と同様に、開田高原マイアスキー場ときそふくしまスキー場は長野県内だけでなく愛知県の方々も気に入っているといえる。

国道19号線沿い（5つまで選択）では、選択肢の数が多いこともあり、前回の3つまで選択から5つまで選択に変更した。その結果、奈良井宿、馬籠宿、寝覚めの床、妻籠宿の順となり、前回は上位に入っていなかった寝覚めの床が浮びあがってきた。

その他のお気に入りの場所は、御嶽山、木曾駒ヶ岳、御岳ロープウェイ、おんたけスキー場の順となっている。道の駅三岳は今回は5番目だが、前回の調査ではほとんどが長野県の方であったが、今回は愛知他2県の方の比率の方が長野県よりも高くなっている。地域の特産品を入手するために利用者が増えつつあるのかもしれない。

木曾地域で有料で楽しんだことは（57人中）、飲食（26人、45.6%）、特産品の購買（15人、26.3%）、温泉（14人、24.6%）、博物・資料館（9人、15.8%）の順であった。無料で楽しんだことは、自然の風景（29人、50.9%）、街歩き（14人、24.6%）、避暑（13人、22.8%）の順であった。

木曾福島地区を訪れた方の多くは、開田高原などで自然の風景を楽しみ、街歩き、博物・資料館を見学、特産品の購入などのために木曾福島地区を訪れていることになるであろう。開田高原を訪れて、木曾福島地区には立ち寄らない方も相当数いることが推測される。2008年度には、調査時期を秋に移し、木曾福島地区と開田高原で同時に調査を行う予定でいる。それによって、今までの調査では補足できないでいる観光客の動向の一端でもとらえることができると考えている。

この調査に参加した学生は、当時松本大学総合経営学部3年生8名（岩下一茂、岩原俊行、落合卓矢、小泉友弘、諏訪坂光、二枝裕樹、宮沢友裕、山口達也）と2年生4名（上原恵美、三澤知枝、百瀬敬一、山岡崇）であった。

謝辞

この調査を行う際に木曾町企画調整課まちづくり係の方々に協力をして頂いた。この場を借りて感謝いたします。

アンケート調査（木曾福島地区を訪れた方対象）

□Q 1 お住まい（ご自宅）はどちらですか

- ①都道府県 1) 長野県 2) 愛知県 3) 岐阜県 4) 静岡県
5) その他（ 都・道・府・県）
②市町村（ 市・町・村）

□Q 2 ①性別と②年齢を教えてください

- ①性別 1) 男 2) 女
②年齢 1) 20歳未満 2) 20歳代 3) 30歳代 4) 40歳代 5) 50歳代
6) 60歳代 7) 70歳以上

□Q 3 ①今回の旅行日程、②今日はその何日目か、③今回の観光コースを教えてください

- ① 1) 日帰り 2) 1泊2日 3) 2泊3日 4) 3泊4日 5) 4泊5日以上
②（ ）日目
③ 観光コース： 1日目（ ）→2日目（ ）
→3日目（ ）→4日目以降（ ）

□Q 4 現在地で何時間ぐらい過ごされますか

- 1) 1時間未満 2) 1時間以上～2時間未満 3) 2時間以上～3時間未満
4) 3時間以上～4時間未満 5) 4時間以上

□Q 5 どなたと旅行されていますか

- 1) 単独 2) 友人知人 3) 家族（子連れ） 4) 家族（大人のみ） 5) 夫婦
6) カップル（未婚） 7) 職場団体 8) ツアー団体 9) その他（ ）

□Q 6 主な交通手段は何ですか

- 1) マイカー 2) バイク 3) 自転車 4) 観光バス 5) 鉄道（JR）
6) 中央高速バス 7) その他（ ）

調査時刻： _____ 時 _____ 分
 調査員ペア氏名： _____

入力用チェック 1
 入力用チェック 2

Q 7 今回の旅行で権兵衛トンネルを利用されるかおたずねします

①権兵衛トンネルを通ってきましたか 1) はい 2) いいえ
 ②権兵衛トンネルをこれから通る予定ですか 1) はい 2) いいえ

Q 8 木曾福島に今までに何回来たことがありますか

1) はじめて 2) 2回目 3) 3～5回目 4) 6～9回目 5) 10回以上

Q 9 木曾福島に来た目的は何ですか (3つまで選んでください)

1) 福島関所 2) 山村代官屋敷 3) 木曾川八沢川親水公園 4) 上の段の街並み
 5) 木曾路文化ギャラリー 6) 温泉 (足湯につかる) 7) 産地直売品・おみやげ
 8) 飲食 9) 避暑 10) その他 ()

Q 10 どこで木曾福島町の情報を集めましたか (3つまで)

1) ここに来てはじめて知った 2) 口コミ 3) ガイドブック 4) 観光パンフ
 5) 道沿いの看板 6) 新聞・チラシ 7) インターネット 8) テレビ・ラジオ
 9) 以前来た 10) その他 ()

Q 11 今回この地域で楽しんだこと、良い印象を持った所を教えてください (それぞれ3つまで)

有料	1) 博物・資料館 2) 温泉 3) 釣り 4) 特産品の購買 5) 飲食 6) 遊園施設 7) 宿泊施設 8) キャンプ 9) ゴルフ 10) その他 ()
無料	10) 地元民との交流 11) 自然の風景 12) 写真撮影 13) 名所・旧跡 14) 祭・行事 15) 避暑 16) 町歩き 17) 農山村の風景 18) 川遊び 19) ハイキング・登山 20) 動植物観賞 21) ドライブ 22) その他 ()

□Q12 今後この地域のどんな地域情報がほしいですか（3つまで選んでください）

- 1) 温泉施設 2) 自然にふれあえる場所 3) 食事の楽しめる場所
4) 季節のイベントや催し 5) 農産物直売所 6) 地元民との交流
7) 空き家（住居）情報 8) ドライブコース・道路 9) その他（ ）
10) 必要ない 11) わからない

□Q13 この地域周辺で今まで行ったことがあり、気に入っている場所に○をつけてください。

①R361号線（3つまで）

- 1) ふるさと体験館きそふくしま 2) きそふくしまスキー場
3) 開田高原マイアスキー場 4) 開田高原 5) 木曾馬の里
6) アイスクリーム工房（開田高原） 7) 九蔵峠展望台 8) 二本木の湯
9) やまゆり荘 10) その他（ ）

②R19号線（5つまで）

- 1) 贊川関所 2) 木曾くらしの工芸館（道の駅ならかわ） 3) 平沢漆器街
4) 鳥居峠 5) 奈良井宿 6) やぶはら高原（こだまの森） 7) 藪原宿
8) 義仲館 9) 日義木曾駒高原道の駅 10) 木曾駒高原 11) 木曾の棧
12) 寝覚の床 13) 定勝寺 14) 道の駅大桑（木楽舎） 15) フォレスバ木曾
16) 桃介橋 17) 斐籠宿 18) 馬籠宿（藤村記念館） 19) やぶはら高原スキー
20) 赤沢自然休養林

③その他（3つまで）

- 1) 道の駅三岳 2) 御岳山 3) 田の原天然公園 4) 御岳ロープウェイ
5) おんたけスキー場 6) 木曾駒ヶ岳 7) 溪谷（ ）

□Q14a 今回の旅行で（旅費、宿泊費を除く）予算は1人当たり大体いくらですか

- 1) 5千円未満 2) 5千円～1万円未満 3) 1万円～1万5千円未満
4) 1万5千円～2万円未満 5) 2万円以上

□Q14b そのうち、ご自分へのお土産代はいくらくらいですか

- 1) 2千円未満 2) 2千円～4千円未満 3) 4千円～6千円未満
4) 6千円～8千円未満 5) 8千円～1万円未満 6) 1万円以上

□Q14c ご自分へのお土産に何を買いましたか（ ）

Q15 木曽路の印象はいかがですか

1) 良かった 2) 普通 3) 良くなかった (期待はずれ) →理由 ()

Q16 あなたは、また現在地 (木曽福島) に来たいと思いますか

1) ぜひ来たい 2) 機会があれば来たい 3) どちらでもな
4) あまり来たくない 5) 二度と来ない

このアンケート調査の結果は木曽地域の振興に皆様のご意見を反映するために行うものです。その目的以外には使用いたしません。

ご協力ありがとうございました。